

小 学 校

平成 2 8 年度

教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究仮説	2
IV	研究の方法	3
V	研究構想図	4
VI	研究内容	5
VII	研究の成果と課題	23

I 研究主題設定の理由

今日、児童は複雑で変化の激しい社会の中で生きている。我々の生活に多様性をもたらした社会のグローバル化や、技術革新による急速な情報化は人間生活を質的にも変化させつつある。先の見通せない時代においては、多様な他者と互いのよさを生かしながら、自ら将来を切りひらいていく力が求められている。

しかしながら、「高校生の生活と意識に関する調査報告書-日本・米国・中国・韓国の比較-(国立青少年教育振興機構平成 27 年 8 月)」によると我が国の高校生については、主体的に学習に取り組む態度、社会参画の意識等が国際的に見て相対的に低い。また、社会参画に関する意識と自己肯定感には関係が見られ、主体的に学習に取り組んだり、他者(集団や社会)と関わったりする態度を育成するためには、自己肯定感を高める指導が欠かせないことが明らかになっている。

本研究員の学級においても自己肯定感の低い児童がおり、集団に対して主体的に関わり行動することについて課題のある児童がいる。例えば、自分の言動に自信をもてなかったり、失敗をしたときに他者からの評価を気にしたりして主体的に動けなかったりする姿が見られる。児童にとって他者からの評価が、自己を肯定的に捉えることに大きく影響することを考えると、児童が他者(集団や社会)へ主体的に関わる力の育成には、自己有用感を高めることが必要であると考えた。

「人の役に立った、人から感謝された、人から認められた」という「自己有用感」は、自己に対する肯定的な評価であり、自分と他者との関係を肯定的に受け入れることから生まれる。自己有用感を高めることにより、他者(集団や社会)に対して主体的に関わることができるようになる。

特別活動は集団の実践的活動である。友達に認められたり、自分のよさを教えてもらったりする活動を積み重ね、自分のよさや成長を実感することで児童の自己有用感を高めることができる。また、互いの存在を認め合う受容的な学級風土を作ることによって、失敗してもそれを生かすことができ、成功するまで諦めずに挑戦しようとする態度や主体的に取り組む力を育むことができる。

学校生活においては様々な集団活動があるが、自己有用感を高めるには、互いのよさや成長を認め合う場を設定し、継続的に指導していく必要がある。そこで、本研究では、学級活動に焦点を当てることとし、これらの課題を解決するために研究主題を「認め合う喜びを実感できる学級活動」と設定した。

自分の役割を理解し、自分のよさを発揮し、それを互いに評価し合う活動を繰り返していくことで望ましい集団活動を実践することができ、よりよい生活や人間関係を気付こうとする自主的、実践的な態度を育てることができると考えた。

本研究では、「認め合う」「喜びを実感できる」を以下のように捉えた。

<p>【認め合う】</p> <ul style="list-style-type: none">●自分のよさに気付く●自分のよさを友達から伝えられる●友達のよさに気付く●友達が自身のよさに気付くことに、自分が関わる●学級全体のよさに気付く	<p>【喜びを実感できる】</p> <ul style="list-style-type: none">●自分のやりたいことができる●頑張ったことや工夫したことを認めてくれる●自分のこだわりを理解してくれる●友達が理解してくれる、認めてくれる●自分の気付かないよさを友達が教えてくれる●みんなと活動することができてよかったと感じる●自分の成長に気付く●学級の成長に気付く●私たちのクラスは楽しいと感じる
--	--

Ⅱ 研究の視点

研究主題を踏まえ、互いを認め合う活動の工夫について、二つの視点を設定し、研究を進めていくこととした。

1 相互評価の観点の提示

話合い活動、集会活動において、児童が、友達のよさに気づき、同じ学級集団の中で認め合う喜びを実感させるために、相互評価の方法を工夫する必要がある。そこで、教師が相互評価の観点を示すことで、児童が他者のよさに気づき、評価し合うことができる。また、評価し合う活動そのものを教師が価値付けることで、相互評価が促進され、認め合うことの喜びを実感できると考えた。

2 相互評価の共有化

学級活動に取り組む際の児童一人一人の目標や役割を可視化することで、自他の努力や工夫、成長を確認する指標をもつことができる。また、活動を振り返った際の自分や友達の成長や努力に対する評価を共有することで、更に多くの児童が互いのよさに気付くことができると考えた。

Ⅲ 研究の仮説

学級活動において、互いを認め成長し合うための、相互評価を可視化し、共有することで、認め合う喜びを実感することができ、一人一人の自己有用感を育てることができるであろう。

IV 研究の方法

1 調査方法

- (1) 調査研究・・・質問紙による
- (2) 調査対象・・・教育研究員が担任している児童
- (3) 調査実施時期・9月上旬、11月下旬
- (4) 調査項目

1	私は、自分のことが好きだ。
2	私は、学校生活の中でがんばっていることがある。
3	友達にみとめてもらったことがある。
4	自分の気持ちを分かってくれる人がいるので、うれしい。
5	私は、みんなのためにがんばったことがある。
6	学校生活の中で4月に比べてできるようになったことが増えた。
7	私は、友達の言葉で、自分のよさに気付いたことがある。
8	このクラスでよかった。
9	みんなで話し合うことは楽しい。
10	みんなで活動することは楽しい。
11	みんなで決めたことを行うことは楽しい。
12	○年○組は、4月に比べてできるようになったことが増えた。
13	○年○組は、クラスの目標に向かってがんばっている。
14	友達のよいところを見つけたことがある。
15	みんなは、私がんばっている時、はげましてくれる。
16	みんなは、私がんばっていることを分かってくれる。
17	みんなは、私の意見をしっかり聞いてくれる。

※質問項目1、2、12については、理由の記述もさせた。

2 実践研究

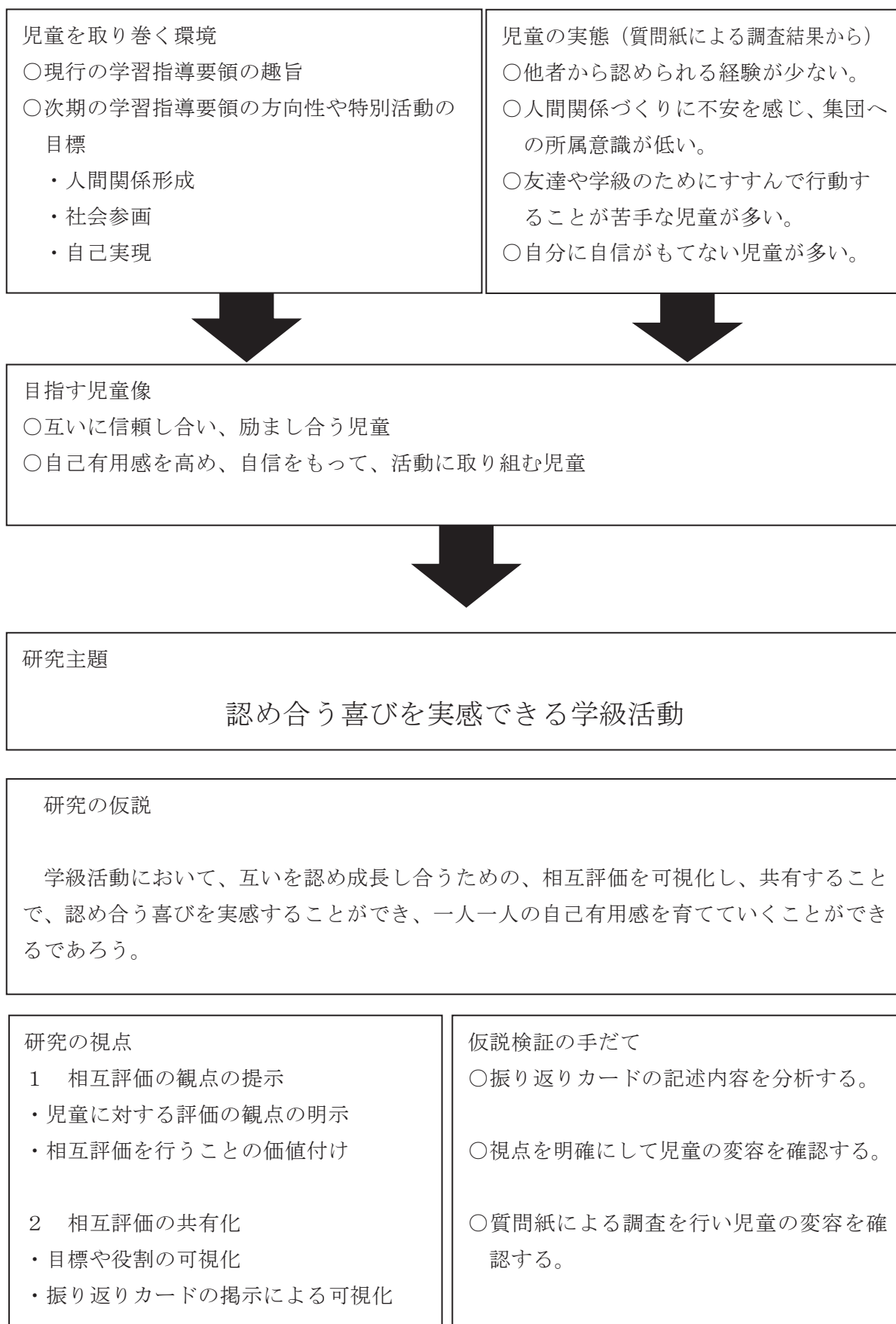
(1) 検証授業（5ページから7ページまで）

- ・学級活動（1）「学級や学校の生活づくり」における検証授業

(2) 実践事例（8ページから22ページまで）

- ・学級経営上の目標や課題に応じた実践の取組のまとめ
- ・児童の相互評価に関する記述の変容から成果と課題の把握

V 研究構想図



VI 研究内容
1 実践研究

【検証授業 1】「5-1大会をしよう」 第5学年 学級活動①

(1) 学級の実態

【基本情報】
児童数は25人で学級編成替えをし、今年度から担任している学級である。児童が主体的に学級活動に関わった経験が少ない。
【学級経営上の課題】
学級会後の振り返りで、友達によかったところを書かせると、「たくさん発言していた児童」への称賛が多い。様々な友達によさに気付かせたい。
【学級の目標】
～笑顔～ 自分の笑顔 友達笑顔 学校の笑顔
【学級活動に関わる実態】 ◎研究の視点に関わること
○全員発言を目標に掲げ、おおむね達成している。しかし、よく発言する児童が中心に話し合いを進めることが多く見られる。 ○話し合いを進行させる発言を意識する児童が増えてきており、2割ほどが司会を助けたり進行に関わったりする発言ができる。 ◎振り返りの際の相互評価には偏りがあり、多く発言する児童に評価が集中している。 ◎発言の内容のよさについての友達への評価を行うことができる児童は、当初5人程度であったが、相互評価のポイントの提示後は、発言の多さ以外の相互評価をする児童が増えた。

(2) 研究の視点に関わる手だて

具体的な手だて	手だての理由
1 振り返りの視点を与える。 五つの観点(①司会グループのよかったところ②司会を助ける発言③新しい意見④クラスや友達思いの意見⑤学級目標・提案理由を意識した意見)を示す。	1 相互評価の視点を増やし、相互評価の偏りをなくし活発にするため。
2 評価の場を増やす。 学級会のみで友達によさを評価するのではなく、集会活動や係活動でも相互評価をする。	2 様々な場面での児童の活躍やよさを評価できるようにするため。
3 評価を可視化する。 「一言感想カード」など、相互評価したものを児童が互いに見合うことができるように付箋に記入させ学級会コーナーに掲示する。	3 気付かなかった友達によさに気付くことができるようにするため。

(3) 授業の概要

議題「5-1大会をしよう」
議題選定の理由
譲り合い、けんかをしないクラスではあるが、遠慮気味・心配性とも言えるので、5-1大の実践を通して、更に仲がよくなり、笑顔が増えると良いと思うから。
検証授業活動の概要 【○活動の様子 ☆助言や手だて】
○大会で行う内容について事前に調査した意見を司会グループで集計・分類したものを掲示して話し合いを始めた。大会で行う内容についての確認が不十分なまま、ルールや内容に意見が移り混乱する場面があった。いくつかの意見にまとまるように見えたが、一つの意見に固執する児童に司会グループから教師に助言を求める場面があった。 ☆困っている時には、「○○についてどうしたらいいですか？」と困っていることをそのまま問う方法もあると助言をした。 ☆終末の助言にて、提案理由を考えて発言した児童を取り上げ称賛するとともに、提案理由を基に話し合いを進めることの意味を児童に問い掛けて、次回以降の課題とした。

(4) 事後の様子

話し合いでは内容が曖昧なものがあったため、帰りの会などを使い共通理解を図った。集会時には全員で楽しんで活動に参加することができ、人間関係を深めることができた。「振り返りノート」には、準備したグループへの感謝や当日活躍した友達への称賛など、様々な児童の名前を挙げて、児童のよさを具体的に記述することができた。

(5) 視点に対する考察

振り返りの視点を与えるという手だてにより、相互評価において友達の名前を挙げられる児童が5~7人程度から15人に増えた。別の視点に目を向けようとする児童も見られるようになった。今後は、行事などを通して高学年としての自信を高めたり、友達と認め合ったりする活動を増やすための取組を行っていく。

【検証授業②】「カボチャパーティー1031の計画を立てよう」 第4学年 学級活動①

(1) 学級の実態

【基本情報】
児童数 32人で担任だけが替わり7か月の学級である。児童の学級活動の経験に差がある。
【学級経営上の課題】
男女の仲がよく、協力して活動に取り組む様子が見られる。しかし、一人一人に自信が無く、学級全体で取組むことについても主体性に欠ける。児童の自己肯定感や自己有用感を高め、自ら課題に向かっていく態度を育てたい。
【学級目標】
いっぱい遊んで、切りかえて学習・友達を大切に・あいさつは元気よく・みんなが健こう
【学級活動に関わる実態】 ◎研究の視点に関わること
○児童が主体となって学級活動を進行してきた経験のある児童が数名いる。その児童が経験を生かし、学級会の中心となって話し合いを進めてきた。 ○発言する児童は全体の7割程度である。よく発言する児童が話し合いの中で活躍する場面が多く、1割の児童は意見を自分のノートに記入してはいるものの発言には至っていない。 ○十分な話し合いが行われる前に多数決等で決定したため納得できず、集団決定に不満をもったことのある児童もいるため、“みんなが納得する”集団決定の流れを模索しているところである。 ◎友達のよさに気付いて、記入したり発言したりすることができる。 ◎振り返りの際の友達の評価には偏りがあり、多く発言する児童に評価が集中している。 ◎発言の質に関わる友達への評価ができる児童は5人程度であり、他の児童は発言の回数が多い友達への評価にとどまっている。

(2) 研究の視点に関わる手だて

具体的な手だて	手だての理由
1 「振り返りカード」に三つの項目(クラスのための自分の頑張り・友達からの承認・クラスの成長)を示す。「わたしだけのピカピカさん」の項目を作る。	1 振り返りの視点を与えることで友達を見る視点が増え、より多くのよさに気付くことができるようにするため。
2 「学級会ノート」「感想カード」など相互評価したものを互いに見合うことができるように掲示する。	2 評価を可視化することで更に多くのよさに気づき、よりよい人間関係を築くことができるようにするため。

(3) 授業の概要

議題「カボチャパーティー1031の計画を立てよう」
議題選定の理由 学級目標の達成を目指して、「友達を大切にしてみっと仲よくなりたい。」と思えるようにしたいから。
検証授業活動の概要【○活動の様子 ☆助言や手だて】 ○パーティーでやることが決まり、話し合いの柱を「仲良くなれる工夫やルールを決める。」としてスタートした。提案理由を意識しながら、「男子も女子も関係なく仲良くしたい。」や「普段一緒に遊んでいない人とも仲良くなりたいたい。」といった意見が出され、ルールを考える話し合いに進んだ。4年1組オリジナルのルールを考えようという流れになり、意見を出し合っていたところで終了の時刻となった。 ☆児童に「自分たちにもできる。」という気持ちをもたせ自信にしていきたい。終末の助言では、司会グループの準備の丁寧さといつものは考えがあっても発言できない児童を認め、褒めた。

(4) 事後の様子

話し合いでルールや工夫が決まったのか曖昧だったものの、朝の会や帰りの会に少しずつ話し合いの続きを行い、当日までに共通理解することができた。集会時には、各々が手作りの仮装を楽しみ、褒め合い、1組オリジナルルールを基に全員が楽しんで活動に参加することができた。

(5) 視点に対する考察

「わたしだけのピカピカさん」という手だては、普段だったら見逃してしまうような友達のよさに気づき、伝えることができる効果があった。今後は、その見つけたよさを生かして自信を高めたり、友達と認め合ったりする活動を増やすための取組を行っていく。

【検証授業③】「みんなが なかよくなるための あそびを きめよう」 第2学年 学級活動①

(1) 学級の実態

【基本情報】
児童数は23人で担任して8か月になる。約半数の児童は1年生時から担任している。当初は、学級会の経験に差があったが、現在はほとんどの児童が学級活動の目的を理解し、活動できる。
【学級経営上の課題】
昨年度まで違う学級だった友達（特に男女間）について、まだ知らないところがある。日常生活や学習の中で相手のことをよく知り、仲良くなろう、協力しようとする姿が見られる。児童は「学級の全員がもっと仲良くなるといい。」と願っている。
【学級目標】
○げん気の 学びゅう ○たのしい 学びゅう ○なかよくする 学びゅう ○あんしんして たのしくて けがをしない 学びゅう
【学級活動に関わる実態】◎研究の視点に関わること
○どの児童もオリエンテーションの内容や、「学級活動は学級のみんなが(自分たちで考えた)学級の目標に近付くための時間である。」ということを理解している。 ○集団決定の際は多数決を行わず、相談しながら決めようとしている。 ◎振り返りの視点を明確に示すことで、徐々に児童の記述内容に変化が見られてきた。

(2) 研究の視点に関わる手だて

具体的な手だて	手だての理由
1 相互評価する相手を固定化する。	1 名前が挙がる児童が偏らないようにするため。
2 ICTを活用し、視覚的に共有化を図る。	2 より効果的に共有化でき、児童の意欲を高めることができるようにするため。

(3) 授業の概要

議題「みんなが なかよくなるための あそびを きめよう」
議題選定の理由
1学期は、毎回「やりたい遊び」を出し合って終了することが続いた。しかし、2学期以降は、徐々に子供たちが成長していく中で、終末の助言の内容を理解できるようになってきたり、児童の気付きから計画委員会が生まれ「外・体育館・教室でやる遊び」と議題を整理して話し合おうとしたりする様子が見られるようになり、「みんなで決めて遊びたい。」という児童の思いや願いから本議題が選定された。
検証授業活動の概要【○活動の様子 ☆助言や手だて】
○「しんごうげーむ」「バレーボール」「リレー」どの順番で遊ぶかについて話し合われた。「リレーは走ると疲れるから、3番目がいい。」と数人の児童が発言し、その後話合いが停滞する様子が見られたため、終末で助言をした。 ☆教師が「何ために遊ぶのかな。」と終末で問い掛けると、多くの児童から提案理由の「2年1組がもっと仲良くなるため。」という声が上がった。2年生という発達段階においても、教師が意識的に、話合い活動の随所で「提案理由」を児童に気付かせたり、確認したりすることが必要である。

(4) 事後の様子

次時の学級会で、「早くみんなで決めて遊ぼう。」「仲良くなるのが目的だからどれから遊んでもいいよ。」という意見が出され、三つの遊びを発言の順番に遊ぶことに決まった。「走る遊びは最後にした方がいい。」と考えて順番にこだわっていた児童が3人いたが、納得して賛成することができた。「少数の意見を大切にしながら、全員が納得する形で決定できたこと。」を大きく称賛した。振り返りの自由記述では、決定したことへの喜びが多く記されていた。

(5) 視点に対する考察

振り返りの記述内容に変容が見られた（より具体的に書く／理由を書く／司会グループや発言の多い児童以外のよさを見つけて書くなど）。教師が意図的に人間関係の深まりにつながるような児童の様子を価値付けて称賛することで、児童が書き方のみならず、「どのように『よさ』を見付けるか。」ということを理解できるようになり、より具体的に記入できるようになった。

2 実践事例

実践事例の概要を以下にまとめる。各実践事例の紹介は、10 ページ以降に記載する。

(1) 視点1 相互評価の観点の提示（評価の工夫）についての実践事例のまとめ

①相互評価の機会の設定

学級や友達によさ、成長を児童に実感させるため、「話し合い活動」、「集会活動」の中で、児童に相互評価の観点を価値付ける指導の工夫を行った。

《話し合い活動》

- ・学級活動の振り返りの内容に、相互評価の視点を設定する。
- ・振り返りカードに、学級の成長の記述欄を設ける。
- ・振り返りカードに、友達によさを見付け記述する欄を設ける。
- ・児童に気付かせ、価値付けたい児童の活動の様子について、終末の助言等で児童に問い掛け、考えさせる。

《集会活動》

- ・新聞形式の振り返りの中に、友達によさを見付け書かせるため「ピカピカさん」と題して自由に記述させる。

相互評価の質の向上、児童の視点を広げることにつなげるため、児童の振り返りの中で、今まで気が付かなかった学級や友達によさ、成長に気付いた児童、話し合いや集会の事前準備の中でがんばっている友達に注目している児童を称賛した。

②相互評価の方法の工夫

ペアを決めた相互評価や、日常的な相互評価の方法を工夫した。

《話し合い活動》

- ・相互評価の相手を固定する。

《係活動》

- ・係の感想カードを活用する。

《その他》

- ・集会活動や学校行事における取り組みのめあてを設定し、設定しためあてに対しての振り返りを行う。
- ・特別活動以外でも、様々な機会に相互評価を取り入れる。

相互評価の相手を固定化したり、学級活動以外の場で相互評価を行ったりすることにより、どの児童にも認められる機会を作ることができる。

(2) 視点2 相互評価の共有化についての実践事例のまとめ

互いによさを共有したり、友達から認められる喜びを実感したりすることができるようにするため、学級活動への意欲付けや、よりよい集団決定をするための工夫を行った。

①話し合い活動における相互評価の共有化

ア 「振り返りカード」の記述内容を掲示して、可視化する。

(ア) 学級会カードをフォルダに掲示する。

- (イ) 相互評価のカードを学級会コーナーに掲示する。
 - (ウ) 「友達のがよかったところ」(付箋)を教室に掲示する。
 - (エ) 「今日のすごいんじゃー」「自分や学級の成長」を学級会掲示板に掲示する。
 - (オ) 「わたしだけが知っているMVP」を教室に掲示する。
- イ 話し合い活動の最初に「みんなの振り返りから」の時間を確保し、相互評価の内容を学級全体で共有する。
- ウ 「振り返りカード」(自己評価やその理由)への記述後、「学級のがよかったさん」を発表し学級全体で共有する。
- エ 振り返りで書いた「友達のキラリ」を活用し、終末の助言に生かす。
- オ 振り返りで書いた「今日のすごいんじゃー」、「友達や学級が成長したところ」を学級通信に掲載する。

②係活動における相互評価の共有化

- ア 係の感想カードを朝の会や、帰りの会で担任から紹介し、掲示する。
- イ 係ごとにポストを設置する。

③集会活動における相互評価の共有化

- ア 集会活動後の全員の振り返りの記述を学級会コーナーに掲示する。

④その他

- ア 行事カードを活用し、掲示する。
- イ 毎日の目標に対する評価を学級全員で行い、掲示する。

相互評価したものを学級全体で共有化することにより、限られた児童だけが評価されるのではなく、多くの児童のよさを見付けることができる。また、自分の評価したものが全体に示されることで、次時の活動への意欲を高めることができる。共有化するにあたっては、可視化が有効であることが分かった。

※相互評価について

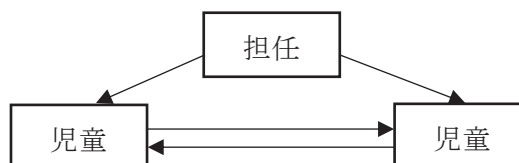
互いを認め合う活動の工夫について、相互評価について二つの視点を設定し、研究を進めてきた。相互評価については言葉の定義や教師の役割について以下のように捉えた。

○相互評価の成立条件

相互評価を、児童同士が互いを評価し合うことと捉えた。適切な相互評価を行うためには児童同士の関係づくりが大切である。児童が互いに信頼し、認め合える学級の支持的風土をつくるための実践を学級活動以外でも行った。

○相互評価における担任の役割

- ・相互評価を行うにあたっての観点の提示
- ・相互評価した後の全体への価値付け



実践事例①【相互評価の可視化（壁新聞型の掲示）】（第2学年）

相互評価に関する児童の実態

4月頃の相互評価は、友達のよさを「○○さんが頑張っていた。」程度の発表や記述で漠然としたものだった。10月に入ってからは7割程度の児童が、友達が何を頑張っていたかなど、具体的に表現できるようになってきた。3割程度の児童は、話し合いが中心の時間では、友達のよかったところを見付けることが難しいが、集会などの実践活動の振り返りでは、具体的に表現できるようになっている。

【方法】

- ・学級会の終末に、「振り返りカード」を記入する時間を4分間設定する。
- ・意図的、計画的に設定した二つの項目について自己評価させ、その理由を記述させる。
- ・「振り返りカード」の記入が終わった児童から、「振り返りカード」を教卓に提出し、相互評価のカード（本学級では「白カード」と呼んでいる）を残り時間内に書けるだけ何枚も書かせる。
- ・「振り返りカード」記入の4分間が経ったら、全員の記述を止め、頑張っていた友達や友達の優しい言動を伝え合う「学級会のよかったさん」の発表をさせる。
- ・「白カード」は活動の写真と共に、学級会の翌日か翌々日までに模造紙に貼り（下図参照）、掲示する。
- ・掲示した日の朝の会か帰りの会で、研究主題の「認め合う」「喜びを実感できる」ことにつながる記述を取り上げ、相互評価する観点を価値付ける。

学級会カード 3

月 日() 日 学級会

ざだい「
学級会でがんばること」

①つぎの学級会で 学級会で 自分の やりたいこと(がんばりたいこと)は、

②やりたい りゆうに まるを つけよう。

③前・うしろの よかったさん ()さんの がんばっていること、いいところを見つけます。

学級会を おかえろう

①学級会で 自分の やりたいことが できた。

☺☹ りゆう

②みんなの ために がんばることが できた。

☺☹ りゆう

【可視化するときの手だて】

- ・活動の写真には、終末の助言で話した内容を書くことで、成果と課題を可視化する。
- ・多くの枚数を書けることを価値付けることで、活動中に友達のよさをたくさん探そうとする意欲を高める。
(右の写真では、23人学級で48枚の白カードの記入)
- ・枚数の多さの次に「認め合い」「喜びを実感できる」ことに繋がる記述を価値付けることで相互評価の質を高める。

○月○日

フルーツバスケットをしよう

活動の様子 (写真)	活動の様子 (写真)
白カード	白カード
白カード	白カード
白カード	白カード
白カード	白カード

【その他の学級経営上の配慮】

- ・特別な配慮を必要とする児童には、学級会の前日の休み時間等に話し合いや実践活動で起こり得ることを予告し、友達のよさを具体的に説明しておく。

実践事例②【相互評価の可視化（はがき新聞の活用）】（第5学年）

相互評価に関する児童の実態

1学期は、学級会の「振り返りカード」に書かれている内容から、相互評価に関する個々の気付きや、認め合いについて、把握するようにしていた。しかし、学級全体に返す場を設けていなかったことや、「振り返りカード」の内容が毎回同じということから、ただ書くだけというような雰囲気となり、内容もマンネリ化してしまった。

2学期から、振り返りカードの内容を変えるとともに、集会活動終了後には、「はがき新聞」を活用し振り返りを行うようにした。紹介したり、可視化したりしたことで、学級活動が発達になってきたとともに、友達のよいところを見付けようとする思いが高まった。

【方法】

《振り返りカード》

- ・「振り返りカード」に、学級目標を入れ、学級目標達成に向けた提案や話し合いになるようにした。
- ・「振り返りカード」に、前回の学級会を意識できるような項目を設け、「よりよい学級会にしよう。」という、気持ちを高められるようにした。
- ・学級会で5分程度の振り返り時間と2分程度の発表時間を設けた。

《はがき新聞》

- ・翌日の朝学習等を活用して新聞を作成した。（はがきサイズの用紙なので、短時間で仕上げることができる。）
- ・活動内容や感想だけではなく、友達の様子や頑張っていること、そこから感じたことなども書くように促した。

【記入後の手だて】

《振り返りカード》

- ・友達のよさや、自分の頑張りについての記述があったところは、称賛や励ましのコメントを入れた。また、朝の会や帰りの会で、学級全体に紹介をし、次に向けて意識や意欲を高められるようにする。

《はがき新聞》

- ・書いた新聞は、教室内に掲示した。また、友達のよさについての具体的な記述や学級全体のことを意識した内容等、全体に広めたい部分については、付箋に教師のコメントを書いて貼り、児童が注目できるようにする。

最後まで 40 人でがんばりました。	お好み焼き新聞
もいでてしま 思△は張 ・でも、事と○い△とつ準 ・い進△にめ○まさくって備 ・ため△さ取役さんにいでは ・の方△さりでんたが○まは で、の組積、は、す○し 二文は、ん極歌、ごさたん 人を一での係 いん、が、な と書人いにの とや私頑	
た。こ作で と、れ素先生が 私、な敵な会 も、そ、う、は、そ、う、そ、う、ま 思、い、て、ま、い、ら、し、ま、し、た、う	【感想】 7 6 5 4 3 2 1 先終フプ遊先はの 生わオレび生じの のりーゼのめプロ の言クダの言ラム 話葉 ダンス 葉

「はがき新聞（はがき大のサイズ）」

【その他の学級経営上の配慮】

- ・同じ時間内に書ける量については、個人差が大きいので、書く量についてはあまり触れず、短文であっても気付きのよさを認められるようにする。

【その他】

- ・よいところを認められた嬉しさや、学級全体が学級活動に積極性が出てきたことで、振り返りや新聞を書くことにも意欲が高まってきている。
- ・体育の学習カードに、友達についての記述が増えるなど、他の場面でも友達のよさを認める記述や発言が増えてきている。

実践事例③【相互評価の共有化・可視化（係活動の振り返り）】（第1学年）

相互評価に関する児童の実態

1年生は学級活動も入門期のため、4月の係活動は当番的な活動も認めながら行ってきた。9月に入り、係活動と当番活動を明確に分け活動を進めることにした。それに伴い、児童全員が自由に書くことのできる「かかりへのかんそうカード」を取り入れた。児童が書いている内容は「たのしかったよ。」「またやってね。」などの単純なものだが、全員で書かれた内容を共有することで、書いた児童と書かれた児童に喜びの表情が見られ、聞いている他の児童への意欲付けにもなっている。また、継続的に共有化していくことで、書く内容も少しずつ具体的なものになってきている（例、『クイズ係』が初めて3択クイズを行った事に対し、「こんなおもしろいやりかたのクイズがあるなんて、しりませんでした。」との感想。最初の頃は照れて発表できなかった『本しょうかい係』が1冊の本を紹介できた事に対し「本のおもしろいところが、すごくわかったよ。」との感想、など。）。

【方法】

※本学級では、毎日給食の時間に「係発表5分間」を設けている。係の発表順をあらかじめ決めておき、毎日輪番制で発表している。5分間の内容は、係活動の発表（クイズ・本の紹介など）、活動の進捗状況を知らせる、アンケートをとる、など。また、朝・帰りの会でも「係から」の時間を設け、簡単な連絡は、この時間に行ってよいことにしている。

- ・担任の机の上に、「かかりへのかんそうカード」を置いておく。児童には、係の活動に対し、いつでも、誰でも書いてよいことを伝えておく。《写真1》
- ・児童はカード記入後、教室に設置してある「みんなのポスト」にカードを入れる。入れたら「入った！」の札を付けることで、ポストにカードが入っている事をみんなに知らせる。《写真2》
- ・ポストにカードが入っているのに気付いた児童がカードを取り出し、担任に渡す。
- ・朝の会や帰りの会などに、担任がカードの内容を全員の前で読み、内容を共有化する。
- ・読み終わったカードは、児童がいつでも見返せるように、教室壁面に掲示する。



写真1



写真2

【手だて】

- ・朝の会や、帰りの会での連絡、「係発表5分間」など、わずかな時間でも継続的に係の時間を設けている。
- ・「かかりへのかんそうカード」は、担任の机の上に置いておくことで、係活動終了後すぐに、担任がカードを書きたい人に呼び掛け、カードを渡すことができるようにしている。
- ・カードは上に貼り重ねて掲示していくため厚みを増していく。時々、貼りながら今までの活動を振り返ることで、たくさんの認め合いをしてきたことや、書ける内容が具体的に変わったことに対する達成感を感じることができるようになっている。

実践事例④【相互評価の相手を固定化する工夫】（第2学年）

相互評価に関する児童の実態

第1回学級会から「友達が、がんばったことは何ですか。」という視点で、振り返りの中で相互評価を記述で行っていたため、友達のよさや頑張りを見付けることができる（おおむね8割の児童が何らかの内容を記述することができる。）。

しかし、司会グループや発言回数が多い児童に対する称賛に偏る傾向があった。教師が意図的に終末の助言で、「特別活動の目標に迫る上で基礎・基本となるような言葉・態度・行動・活動」を称賛することで、記述内容がより具体的になったり、理由が記述されたり、徐々に児童の記述内容に変化が見られるようになってきた。

【10月8日】学級会

①自分ががんばったこと カードにグループの名前を書いたり、めあてを書いたりしたこと。
②友達に自分の気持ちや考えを分かってもらえた 黒板にはってある紙に何が書いてあるか分かってもらえた。
③今日のおとなりさん 【記入無し】



【11月24日】学級会

①自分ががんばったこと 〇〇さんといっしょに、どのような順番がいいか書いたことです。
②友達に自分の気持ちや考えを分かってもらえた 自分がきれいに字を書いたら、〇〇さんにみんなが見えるように書いていたと言ってもらえたことです。
③今日のおとなりさん 〇〇さんが、いつもと違うことを書いていていいと思いました。〇〇さんは何をしたいのかな？次はどうやってやるのか楽しみです。

【方法】

- ・「振り返りカード」に三つの視点を設け学級会の終末でマークや点数での評価を理由とともに記入する。
(①自分自身に関すること／②友達に関すること／③友達のがんばりやよさ)
- ・「今日のおとなりさん」と称して、座席が隣の人、後ろの人、前の人等学級会ごとに相互評価する相手を固定化する。
- ・名前と理由を記入するのではなく「〇〇さんへ」とメッセージとして記入させることで、児童がより平易な記述で記入しやすくする。

【相互評価の可視化の手だて】

- ・児童が記入したカードを教師が一度回収し目を通した後、コメントを記入し、記述内容への称賛を行い、「何がよかったか。」について、より具体的に価値付ける。
- ・翌朝児童が登校してくるまでに壁面の掲示ホルダーに入れておくことを予告しておき、互いに読み合う楽しさや意欲を高める。

【その他の学級経営上の配慮】

4月実施アンケートにおいて、「友達のよいところを見つけたことがある。」という設問に対し「いいえ」と回答した3人の児童について配慮を行った。「このクラスでよかった。」「自分の気持ちを分かってくれる人がいるので、うれしい。」「みんなは、わたしががんばっているときはげましてくれる。」の設問に関しても「いいえ」という回答があることから、自己肯定感が低い児童がいることが考えられた。意図的に終末の助言で称賛したり、個別に話をしたりするなどして、励ますこととした。

実践事例⑤【相互評価を意識付ける振り返りの工夫】(第4学年)

相互評価に関する児童の実態

ほとんどの児童が友達のよさを見付け、伝えようとしている。しかし、話し合いの中でたくさん発言をしている児童に注目が集まってしまうたり、司会グループの活躍のみしか見付けられなかったりする様子が見られる。そのため、相互評価を意識し、広い視野で活用できるようにすることが必要であると考えた。

【方法】

- ・本学級では、学級会や集会活動の後に振り返りカードを活用している。
- ・「振り返りカード」に、クラスの成長などの項目や「わたしだけのピカピカさん」の記述欄を設けることで、相互評価に役立て、自己有用感を育てようと考えた。

【振り返りの項目】

項目	記述内容
今日の学級会で、クラスのために自分ががんばったことは何ですか？	今日の学級会で、たくさん発言できたこと。 友達の意見を、しっかり聞くことができたこと。 みんなと協力して話し合いを進めることができたこと。 など
友達に自分の気持ちや考えを分かち合えたり、考えを分かち合えたりしましたか？	100点 友達が「いいです。」と言ってくれたから。 90点 友達がうなずきながら聞いてくれたから。 など
今日の学級会で、4年1組はクラス目標に近づくことはできましたか？	100点 みんなの気持ちが一つになって決めることができたから。 90点 話し合いを進めるために、みんなで意見を出し合ったから。 80点 協力して話し合ったけど、決まらなかったから。 など
わたしだけのピカピカさん	発言する人の方を向いて、話を聞いていたから。 こっそり「こうやって言えばいいよ。」と教えてくれたから。 「いい意見だね。」と言ってくれて勇気が出たから。 など

【振り返りの項目を工夫する手だて】

- ・項目を新しくした際に、どのような場面があるか児童と一緒に考える時間を取る。
- ・振り返りを記入する際に、新しい視点や今まで気付かなかった友達のよさを発見した児童を褒め、紹介した。
- ・集会活動の際には、新聞形式でピカピカさんの自由記述を行う。当日の様子だけでなく、準備や陰での働きにも注目している児童を評価する。

【その他】

- ・振り返りの視点を示し新しい視点を増やしたことで、今まで自信をもてなかった児童の行動の基準となり、自主的に活動する姿が見られるようになった。
- ・振り返りの項目を学級の実態に合わせることが必要である。その時その学級に必要な視点を与え、振り返りの項目も適宜変えていく必要がある。
- ・見つけた友達のよさをどう伝えていくかが難しい。可視化することや教師からの紹介も含め、広く様々な場で共有化していくことで、より多くの友達のよさへの気付きとつながると考える。

実践事例⑥【相互評価の共有化】（第5学年）

相互評価に関する児童の実態

友達のをさを認め合いながら話し合いを進めたり、学級会の最後に行う振り返りの時間に友達のをさに気づきノートに書いたりすることができる。しかし、相互評価で記述する際に発言回数が多い児童や司会グループに対する称賛に集中することが多く見られた。そこで、学級会の相互評価における視点を与えることで、今まで気付かなかった友達のをさを見つけやすくなると考えた。

また、高学年として学校全体に関わる活動が増え、意欲的に取り組んでいる。その活動においても積極的に相互評価を行い、より多くの児童のをさを認め合う場面を設定することで、個性や持ち味を発揮し認め合う喜びを実感できると考えた。

【方法①】学級会での振り返りの視点の設定

- ・教師が評価の視点を示し、その中から児童が見付けた「友達のがよかったところ」を付箋に記入、発表させる。回収した付箋は翌日に掲示をする。互いにコメントを読み合ったり、朝の会等でどのように良かったのかを伝えながら紹介したりする。

【手だて】

- ・視点は「振り返りカードを書くポイント」として五つ示し、のをさを見付けやすくする。各ポイントに応じて付箋の色を変えて記入させる。
- ・自分の振り返りはノートに、友達のがよかったところは付箋に分けて記入させる。
- ・児童が見付けられなかった視点や良かった点などは、終末の助言で何が良かったのか具体的に伝え、次回の課題とする。
- ・付箋はまとめて画用紙に貼り、全員が見ることのできるようにする。
- ・振り返ることで次回の学級会に生かせるようにする。

振り返りカードを書くポイント

- ①（桃）司会グループの良かったところ、頑張っていたところ
- ②（緑）司会グループを助ける発言をした友達
- ③（黄）初めての発言や新しい意見を出した友達
- ④（青）みんなのために意見を譲ったり、変えたりした友達。友達の違いや発言を大切にされた友達。
- ⑤（赤）議題・提案理由・学級目標を意識した発言をした友達

【方法②】認め合う場面の設定

- ・集会活動や学校行事などの際には全体の前を確認する。それに対し、自身の具体的な目標・取組みを「めあてカード」に記入させる。活動の途中にはグループごとに進み具合や問題点などの「報告会」を行う。活動後は「振り返りカード」に記入させ・紹介する。

【手だて】

- ・様々な活動で相互評価させるために、写真や動画などを用いて児童の様子を紹介し、今まで知らなかった一面に気づきやすくする。
- ・「報告会」では活動ごとの小集団で中間報告をすることで、全員が考え、自身の持ち味を生かしやすくする。
- ・「振り返りカード」では、「友達に伝えたいこと」の項目を立てることで、より具体的に友達のをさを伝えられるようにする。
- ・紹介するときには、活動の準備等をした人とその活動を支え協力した人の両者を称賛する。

実践事例⑦【相互評価の共有化】（第5学年）

相互評価に関する児童の実態

高学年となったことで学校生活での活動の幅が広がり、「自分は学校生活の中で頑張っていることがある」と9割の児童が回答している。しかし、その頑張りを友達に認めてもらったり、自分の気持ちを分かってくれたりしている人がいると実感している児童は少ない。活動への意欲を持続させたり、更にすすんで行動したりする姿を育てていくためには、互いの頑張りや成長を感じる場面を増やし、学級全体で積み重ねていくことが必要である。

【方法①】 目標や役割の可視化における行事カードの活用

- ・集会活動や行事の前に、自分自身はどのようにして取り組むのか考えて「行事カード」に記入する。
- ・「行事カード」を互いに見合い、友達の取組状況を確認する。
- ・集会活動、行事終了後に振り返りを行い、互いの頑張りや成長したことを掲示し、共有化を図る。

※行事カードについて

- ・集会活動や行事において、学級全体でめあてを共有し、そのめあてに向かって自分はどのように取り組んでいくのかを具体的に考えて記述する。
- ・集会活動や行事への取組期間中は、めあてを意識して取り組むことができるように「行事カード」を見合ったり、担当が声掛けをしたりする。
- ・行事終了後には、どのように取り組んだのかを「行事カード」に記述し、振り返りを行う。

行事カード 学習発表会に向けて

5年 組 名前 ()

実行委員

学年のスローガン

自分のめあて

↑ こんなことをがんばる！

何をするのか具体的に書かせるようにする。

【方法②】 目標（めあて）に対する相互評価の可視化

- ・毎朝、その日全員が達成したいめあてを考えさせる。
- ・朝の会でめあてを発表し、カードに記入する。
- ・帰りの会で振り返りを行い、達成率によってシールを貼る（全員達成できたら金シール、半分以上が達成できていたら銀シール）。
- ・めあてを継続して提示しておくことで、全員で取り組み達成したことを実感できるようにするとともに、次のめあてを考える手だてにする。

学習発表会を振り返って…

5年 組 名前 ()

理由

点

「この行事でついた力」

「発見！ MVP」 () さん

これから生かしていきたいこと

なぜ、その点数になったのか。どうしたらよかったのか書かせるようにする。

実践事例⑧【相互評価の共有化】（第5学年）

相互評価に関する児童の実態

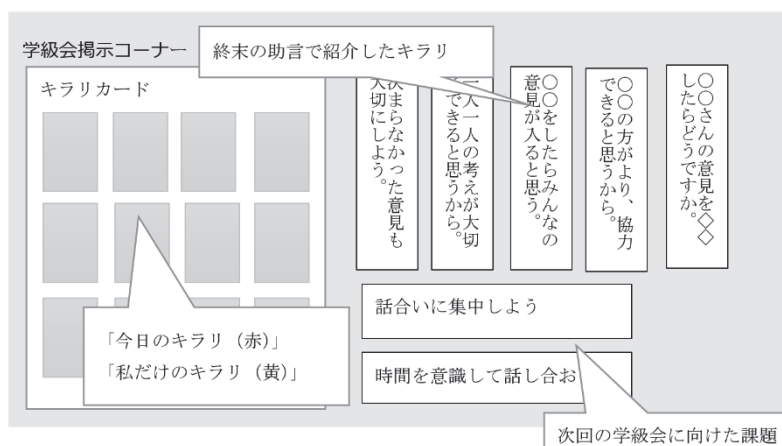
日常の様子やアンケート結果から、友達によさに気づき、認め合うことはほとんどの児童ができています。その一方で、「友達の言葉で自分のよさに気付いたことがある。」という項目には、約3割しか「はい」と答えられていない。また、自分や学級の成長を感じてはいるものの具体的な記述ができなかったり、学級会の友達のキラリ（よかったこと）発表だけでは、名前が挙がる児童に限られており、その内容も態度面や発言回数の多さを挙げたりする児童が多かった。そこで、周りの友達が気付かないよさを見付け共有化したり、多くの児童のよさを認め合う場面を設定したりすることが必要であると考えた。

【方法①】終末の助言の工夫

学級会の振り返りで児童が見つけた友達のキラリ（よかったこと）を活用し、終末の助言を行う。

【活用するときの手だて】

- ・キラリカード（付箋）を2枚（「今日のキラリ」【赤】と「私だけのキラリ」【黄】）用意し、自分だけが気付いた友達のよさを見付けるようにする。
- ・できる限り児童が見つけたキラリを活用して、終末の助言を行い、選ばれた児童と見つけた児童の両方を称賛するようにする。
- ・終末の助言で紹介できなかったキラリについては、注目してほしいポイントに赤線を引いたり、吹き出しにコメントを書いたりしてまとめたものを掲示し、朝の会等でも紹介する。
- ・終末の助言で伝えたことは学級会コーナーに掲示し、今後の学級会に生かせるようにする。



【方法②】友達、学級のよさを認め合う場の工夫

話し合い活動、集会活動、係活動で、相互評価を行い学級会コーナーに掲示する。

【活用するときの手だて】

- ・集会活動の振り返りとして、新聞にまとめ、掲示する。新聞には、必ず「自分が学級のためにがんばったこと」と「友達や学級のキラリ」を入れるようにする。キラリは朝の会等で全員紹介し、特に見てほしい新聞は、学級通信に載せて共有化できるようにする。また、集会の写真や景品、賞状なども掲示し、今まで自分たちが行った集会をいつでも振り返られるようにする。
- ・係活動コーナーに、係ごとのポストを用意し、友達からの「キラリカード」や「アイデアカード」を入れるようにする。友達のよさを具体的に認めているカードには赤線を引いたり、読んで紹介したりする。「アイデアカード」は、翌月の活動計画を作成する際に活用する。友達から認めてもらったり、新たな発想をもらったりすることで、係活動への意欲付け、活性化へつなげる。

実践事例⑨【相互評価の共有化を】（第5学年）

相互評価に関する児童の実態

アンケート結果から、「自分はがんばっている。」「私は、みんなのために、がんばったことがある。」という項目は、ほぼ100%の児童が「はい」と答えているのに対し、「友達にみとめてもらったことがある。」「私は、友達の言葉で、自分のよさに気付いたことがある。」という項目では、低い傾向が見られた。そこで、友達のよさや成長に気付き、5年1組という学級を自分たちでよりよくしていこうという意識を育てるために、学級活動において相互評価を取り入れ、それを意図的に共有し、児童同士の認め合いの場を多く設定する必要があると考えた。

【方法①】学級通信の活用

日常生活（学級活動や学習面、生活面など）の中で教師が見取ったことや児童が気付いたこと（友達のよさや学級の成長など）を学級通信に記載する。また、児童の気付きの中で注目させたいポイントを太くしたり、教師がコメントを入れたりすることで、何がどのようによかったのかの価値付けを行う。

《学級会後（話し合い活動）の学級通信への記載内容》

○自分だけが知っている友達のよかったところ

- ・人がいやだと思うことを考えていて、これだと仲良くなれないというAくんの思いが伝わってきてすごいと思った。
- ・Bさんは、自分のことだけでなく、他の人も喜ぶ方法を提案していていいと思った。
- ・Cさんは、見えないところで時間を気にしていた。
- ・Dくんは、いやがる人も中にはいるんじゃないかとクラスの人のことを考えていると思った。

○クラスが成長したと思うところ

- ・ただ意見を言うのではなく、「これだと提案理由からそれてしまう」と先のことを考えながら意見を出したり、提案理由も考えながら発言したりしている人が増えた。

○自分が成長したと思うところ

- ・提案理由を考えて発言できるようになった。
- ・発言はできなかったけど、発言している人の気持ちが分かった。

《学級通信を配布するときの手だて》

学級通信は朝や帰りの会で配布し、良かったところや成長したところをクラス全員が知る時間をもつことで、友達やクラスの成長を全員で共有する。

【方法②】学級会掲示板の活用

話し合い活動や集会活動での記録や相互評価の観点や内容を、学級会掲示板に掲示し、いつでも児童が自分や友達、学級のよさや成長を振り返られるようにする。

学級通信 第38号

ONE☆STEP!

先日、第6回学級会「なんでもバスケットの工夫を考えよう」を行いました。学級活動は、学級目標に向かって5年1組がもっとよいクラスになるための活動を行う時間です。

今回の学級会の提案理由は以下の通りです。

○○さん

「お楽しみ会がやりたいです。お楽しみ会をすることで仲が深まったり、協力することで心が一つになったりするからです。そして、失敗したら次はああしよう、こうしようか思いついて成長できるからです。」

◇◇さん

「チーム戦やおにごっこなどの遊びではなく、みんなが分らない遊びがいいです。たしかにチームごとの協力もいいとは思いますが、同じチームになれなくて仲良くなれないこともあるかもしれないからです。」

上記のような提案をもとに、次の集会では「お楽しみ会！なんでもバスケット」をすることになりました。

そして、あまり準備がない中での学級会でしたが、これまでの経験を生かして、自分たちの力で話し合うことができました。たくさん意見をまとめることが難しかったのですが、前回の学級会から比べて、たくさん成長が見られました！！

また、学級会の振り返りでは、友達やクラスのよさや成長に気付いたり、自分が成長したことを自分自身で気付いたりする人が増えてきました。

実践事例⑩【相互評価の向上を目指すための工夫】（第5学年）

相互評価に関する児童の実態

学級会の振り返りシートを見ると、友達のよさを見付けられる児童が多いが、具体的なよさを書くことができる児童はまだ少ない。少数ではあるが、どのようにしたらよくなるのかアドバイスを書く児童もいる。しかし、国語の授業などで相互評価の内容を交流したときにアドバイスの評価を受け入れられずに、相互評価のカードなどを交換すると「嫌なことを書かれた。」「文句が書いてある。」という感想が出てくることがあった。友達からの評価を受け入れ、温かい気持ちで評価し合える環境が必要であると考えた。

【方法】

- ・ 班のメンバーで交換日記型の「リレーノート」を実践している。
- ・ 特別活動の時間以外でも日常的に相互評価を行い、相互評価に慣れると共に、視点を広げられるようにする。

【リレーノートについて】

リレーノートは、班のメンバーで行う交換日記である。一日、一人1ページを担当し、4日で班のメンバー全員がノートに記入することになる。日記に記述する内容は児童のそのままの感想や意見を引き出すために基本的に自由とした（人が読んで傷付く内容などは不可であることを、事前に指導した。）。さらに、前に書いた人へのコメントや前の人の書いた内容を引き継いだ内容を書くというルールを定めた。前の人の書いた内容を意識することで互いを思いやる気持ちを育み、コメントを書くことで相互評価の向上につながるのではないかと考えた。児童が書いたノートには教師が一言コメントを書き、内容を引き継いでいない場合はどのようにしたらよいかアドバイスを書いた。また、メンバーを思いやる内容や学級のよさにつながる記述には、称賛のコメントを書くとともに、朝の会などで紹介した。

【日常的な相互評価について】

学級会の振り返り以外でも積極的に相互評価を取り入れ、相互評価の視点を養えるようにしている。国語のグループ発表や個人での音読発表などで相互評価を行い、日常的に相互評価を行えるようにしている。

相互評価ではコメントカードを記入し、発表後に個々の書いたコメントが全員に届くようにしている。また、コメントを読み、「うれしかったカード」「アドバイスをしてくれたカード」に分類させ意識的に内容を読ませるようにした。

ただの感想カードの交流ではなく、「アドバイスカード」とすることで、文句や嫌なことととられないようにした。また、記入内容で一番うれしかったことが書かれたカードの発表をすることで、どのようなことを書くとみんなが喜ぶのか、意識できるようにした。

メッセージカード	
〇〇班へ	
割り付け	(とてもよい) よい ふつう)
内容	(とてもよい) よい ふつう)
題名でどんな記事なのか見たくなるし	
割り付けもすごいと思います。	
写真もふんだんに使っているので分かりやすいです。 6班の ○○○より	

実践事例⑩【相互評価の観点の提示】(第4学年)

相互評価に関する児童の実態

学級会の終末において毎回各自が「学級活動ノート」にその日の振り返りを書き、自分ががんばったこととともに、友達のがんばったことやよかったことを記入している。ほとんどの児童が友達のよい点を書くことができている。前期においては、司会グループのがんばりや、発言回数が多い児童のよさについて書く児童が多かった。そこで相互評価の観点を提示することで、発言の多さではなく、発言の内容や学級のために役立つよう努力している児童の姿など、友達の様々なよさに気付かせることが必要であると考えた。

【方法】相互評価の観点の提示

- ・話し合いで友達の意見のどんなところに注目すればよいかの観点を提示することで、友達の多様なよさに気付けるようにした。

☆司会を助ける意見

☆理由をはっきりさせて賛成や反対を述べた意見

☆提案理由を考えながら述べた意見

☆いくつかの意見をよりよくまとめようとした意見

☆クラス全体のことを考えた意見

☆友達のよさを生かそうとした意見

- ・この観点は、いつも教室内の学級会コーナーに掲示しておき、いつでも確かめられるようにした。

【活用するときの手だて】

① 「学級活動ノート」の振り返り

- ・「学級活動ノート」の振り返りには、これまでは『友達のよかったことやよかった意見』を自由に記入させていたが、『わたしの見つけたピカピカさん』というネーミングにすることで、「誰もが気付く友達のよさ」というより、「自分だけが気付いた友達のよさ」という意味合いを強めた。

② 「学級活動ノート」の教師の助言への活用

- ・「学級活動ノート」の振り返りを、終末の教師の助言に活用する。また、学級会の翌日の朝の会などで友達の多様なよさに気付いている振り返りを全体で紹介することで、次回の学級会で更にいろいろな友達のよさを見付けようとする意欲を高める。

話し合いを振り返って思ったことや考えたこと
☆今日の学級会でクラスのために頑張ったこと
提案理由に「遊ぶ時もみんな交流ができる」があったので、意識しました。自分が楽しんでいるだけに
ならないようなクラス祭りをしたい。
☆わたしの見つけたピカピカさん(その理由も)
○○さんは、自分でれいせいと考えて、「たしかに
できない。」と自分で確認をしていたのがすごいと思
いました。

実践事例⑫【相互評価の可視化】（第6学年）

相互評価に関する児童の実態

多くの児童が友達のよいところを素直に認めることができる。他教科の授業中や学校生活の中で、友達の素敵だと思う発言や行動、頑張っている姿などに気付くと、自然と拍手が沸き上がる学級である。

しかし、友達のよい発言や友達が励ましてくれた言葉には、敏感に気付くことができるが、自分のよさにはなかなか気付くことができないのが実態である。

【方法①】振り返り新聞（集会の実践）の掲示

- ・集会等の実践振り返りをA4サイズの画用紙に新聞形式で書く。
形式は自由だが、必ず以下の項目は書くこととしている。
 - ① 友達のすてきなところ、よかったところ、頑張っていたところなど
 - ② 話し合ったことを実践した感想（振り返り）
 - ③ 次の集会で生かしたいこと
- ・集会を行った週末の家庭学習の時間に書き、週明けに提出する。
- ・新聞を教室内に掲示する。

【方法②】学級会振り返りカードの掲示

- ・学級会振り返りカードに、「私だけが知っているMVP」の項目を作り、記入をする。
- ・学級会后、教室内に掲示する。

評価を数値化し、その理由も書かせる。

<p>今日のMVP ○○さん 黒板記録しながら分かりやすい意見を言っていたから。</p>	<p>私だけが知っている今日のMVP ◇◇さん 給食職準備中などにいっしょに準備を手伝ってくれてうれしかったから。</p>				
<p>1 今日の学級会は楽しかったですか？</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">楽しかった度</td> <td style="width: 70%;">理由</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">90 %</td> <td>司会、グループの準備や司会を頑張れたから。</td> </tr> </table>		楽しかった度	理由	90 %	司会、グループの準備や司会を頑張れたから。
楽しかった度	理由				
90 %	司会、グループの準備や司会を頑張れたから。				
<p>2 今日の学級会であなたの意見を友達が認めてくれたり、賛成してくれたりしましたか？</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">満足度</td> <td style="width: 70%;">理由</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">90 %</td> <td>意見をメモしていたのを見てくれていた。</td> </tr> </table>		満足度	理由	90 %	意見をメモしていたのを見てくれていた。
満足度	理由				
90 %	意見をメモしていたのを見てくれていた。				
<p>3 あなたは、前回の学級会より進化したか？</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">進化度</td> <td style="width: 70%;">理由</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">100 %</td> <td>話合いの柱を聞かなかったから。しっかり聞けばよかった。</td> </tr> </table>		進化度	理由	100 %	話合いの柱を聞かなかったから。しっかり聞けばよかった。
進化度	理由				
100 %	話合いの柱を聞かなかったから。しっかり聞けばよかった。				
<p>4 クラスは、前回の学級会より進化したか？</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">進化度</td> <td style="width: 70%;">理由</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">50 %</td> <td>意見を言う人がだいたい同じだったから。</td> </tr> </table>		進化度	理由	50 %	意見を言う人がだいたい同じだったから。
進化度	理由				
50 %	意見を言う人がだいたい同じだったから。				
<p>前回の学級会の反省を生かした振り返り 司会をうまく進められず、混乱してしまったから残念だった。</p>	<p>次の学級会で治したいところ 司会から見ると、あらためて意見を出す人が同じだと分かった。次回から意見を出せるようにしたいです。</p>				

私だけが知っているMVP

前回の学級会での反省をどのように生かしたか振り返らせる。

今回の学級会での課題を次回の学級会でどのように改善するか考えさせる。

【可視化するときの手だて】

- ・掲示することを必ず伝え、みんなが自分の書いた新聞や、振り返りカードを見てくれることを知らせる。そのことで書く意欲を高めることができるようにする。
- ・教師が意図的に、児童に見て欲しいところを、赤ペンとシールで伝え、価値付けしていく。
- ・掲示する前に、児童に主なものを紹介することにより、児童の関心を高める（特に、自分のよさになかなか気付くことのできない児童の名前があるものなど）。
- ・学級会后すぐに確認し、タイムリーに掲示をしていくことで、次回の学級会に役立てる。

実践事例⑬【相互評価の共有化(話し合いの質を高めるための共有)】第5学年

相互評価に関する児童の実態

今年度4月当初は、アンケートや日常の言動から自尊感情が低く、友達のよいところを認めたり、自分のよさに気が付いたりすることができない場面が見られた。そこで、学級会(話し合い活動)や集会活動において、「友達のよさ」「自分のよさ」「学級のよさ」に視点をおいて相互評価を行い、それを共有化することで、認め合う喜びや自分たちの力で学級をよりよくしていくことの意識を実感できるようにすることが必要と考えた。

実践を積み重ねた結果、学級会で一人一人の考えや思いを認め合う姿、そして、集会活動により自己有用感を高める姿が多く見られるようになっていく。

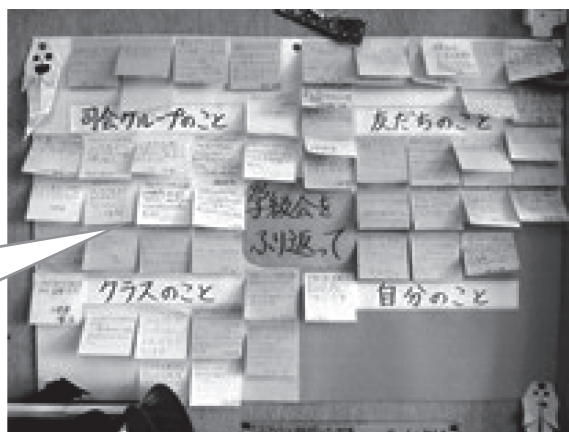
【方法①】友達や学級のよさを認め合う場の工夫

話し合い活動の振り返りで、児童が見つけた「友達のよかったこと」「自分にできたこと」「クラス(話し合い)のよかったこと」を相互評価のカードに記入し、学級会コーナーに掲示する。(活用するときの手だて)

- ・相互評価のカードに記入する内容は、自分の振り返りの中からみんなに伝えたいことを選んで書かせ、互いに認め合う喜びを実感できるようにする。
- ・相互評価のカードを掲示することで、互いの思いや願いを共有し、次の学級活動の意欲付けにつなげ、相互評価の質を高めていく。
- ・話し合い活動の冒頭に、「みんなの振り返りから」の時間を設定し、掲示された相互評価のカードの中から、「認め合う喜びを実感できる」ことに関連する内容を取り上げ、相互評価する観点を価値付けたり、話し合いの質を高めようとする意欲をもつことができるようにする。

四つの視点に分類し掲示

- 司会グループのこと
- 友達のこと
- 自分のこと
- クラスのこと



話し合いでの相互評価を掲示

【方法②】一人一人の思いを共有し、次の話し合い活動や集会活動に生かす工夫

集会活動の後に、「クラス目標を達成できたか」の視点で振り返りを行い、そこに書かれた一人一人の思いや喜びをまとめ、学級会コーナーに掲示する。

(活用するときの手だて)

- ・集会活動の振り返りカードの項目を、クラスの目標の達成についての視点や改善点や自分にできることについての視点に設定することで、次の学級活動(話し合い)で自分の思いを伝えたいという意欲を高める。
- ・集会活動の振り返りで一人一人の思いや喜びを共有することで、自分たちの力で次の話し合い活動をより質の高いものにしようとする意欲を高める。
- ・全員の記述を載せることで、一人一人の思いが大切にされているという実感をもたせる。

VII 研究の成果と課題

様々な実践を積み重ねた上で、児童の変容を検証するために、11月下旬に2度目のアンケート調査を行った。この調査の結果から、全17項目全てにおいて、「はい」と答える児童の割合が増えた。また、各実践事例の成果の課題からも相互評価に関する児童の変容が見られた。アンケート結果と各事例の実践から得られた成果と課題をまとめる。

1 成果

【視点1 相互評価の観点の提示】

(1) 友達のよさを見付ける視点の広がり

話し合い活動では名前の挙がらない児童についても、集会活動の新聞では、よさが多く記されており、認め合う場を増やすことができた。いろいろな角度から友達の頑張りや成長を記述することができた。

学級活動だけでなく、様々な機会に友達のよさや努力しているところなどを見付ける視点を示し、相互評価の回数を重ねてきた。このことにより、当初多く見られた学級会での発言回数、姿勢や態度以外の視点から友達のよさを見付けることができるようになった。

(2) 具体的な評価の記述の増加

友達のよさを具体的に捉えられるよう児童への問い掛けの言葉を変えた（例「今日のキラキラさん」→「私だけが知っている今日のキラキラさん）。これにより、友達のよさを見付けようとする意欲が高まり、具体的な記述内容が増えた。

【視点2 相互評価の共有化】

(1) 学級集団への参画意識の向上

一人一人の振り返りを互いに共有することにより、学級の全員が「学級の目標に向かって皆が頑張っている」という意識をもち、自他の頑張りや学級の成長を実感することができるようになった。

(2) 児童の相互評価への意欲の向上

学級会の「振り返りカード」を掲示することで、自分に宛てられたメッセージをうれしそうに見付ける様子が見られたことから、「書くこと」だけでなく友達からメッセージを「もらえること」で、児童の意欲を高めることができた。

(3) 学級集団としての活動意欲の向上

目標や役割を可視化することにより、活動の目的や方法を共有し、自他の役割を理解して活動を行うことができた。その結果、互いに協力しようとする意欲が高まり、みんなで活動することが楽しいと感じる児童が増えた。

【全体を通じて】

(1) 児童の自信や主体性の高まり

自分や学級の成長を自覚し、自信をもって意欲的に活動する児童が増えてきた。また、自分たちの力で活動を高めていこうと工夫する姿が見られるようになり、すすんで取り組む児童も増えてきた。

2 課題

(1) 様々な児童への評価

学級会であまり発言をしなかった友達のよさに児童が目を向けることは、まだ十分ではない。学級会への参画の仕方や、集会活動や日常の実践の在り方についても、友達のよさや成長に多角的に気付くことができるようにする必要がある。

(2) 相互評価を掲示するスペースの工夫

教室内の掲示場所は限られている。相互評価のカードなどを常時掲示しておくことは難しい。掲示以外での相互評価の共有化の方法を効果的に結び付けるなどしてスペースの不足を補う必要がある。

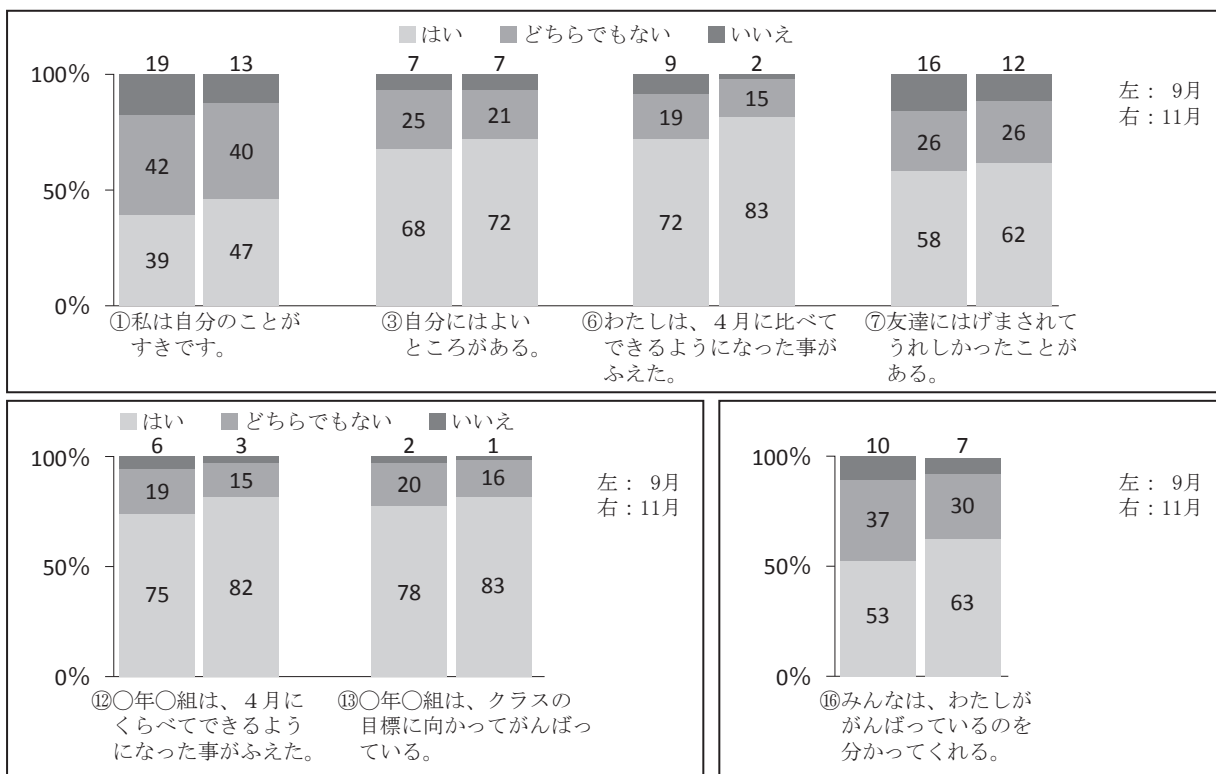
(3) 実態に応じた系統性のある相互評価

本研究では、学級の実態に応じて手だてを工夫してきた。相互評価に関する学級の実態を把握し、振り返りの項目や、指導する観点を実態に応じて工夫して示すことが効果的であることが分かった。引き続き、学級の実態に応じた相互評価の在り方についての系統的な指導法について研究を深めていきたい。

(4) 自身の成長や頑張りを肯定的に捉えさせる手だて

アンケート結果からは「私は自分のことが好き。」という項目は、他の項目に比べ変容が少ないことが分かった。実際の「振り返りカード」などの児童の記述には、自分や友達のよさや成長を見付けられているものの、アンケート結果には十分に反映されていない。

相互評価の充実により、自己有用感を高めるための支持的な学級風土は出来上がりつつある。自己有用感を高めるため、学級活動でのよさや成長の評価だけでなく、児童一人一人の持ち味やありのままのよさを、互いに認め受け入れられるような手だてを講じる必要がある。



平成28年度 教育研究員名簿

小 学 校 ・ 特別活動

学 校 名	職 名	氏 名
新 宿 区 立 津 久 戸 小 学 校	主任教諭	浅田 美由紀
文 京 区 立 湯 島 小 学 校	主任教諭	◎ 藤田 寛樹
世 田 谷 区 立 八 幡 小 学 校	主任教諭	亀田 貴彦
世 田 谷 区 立 用 賀 小 学 校	主任教諭	多胡 良美
涉 谷 区 立 幡 代 小 学 校	主任教諭	関村 明子
杉 並 区 立 高 井 戸 第 四 小 学 校	主任教諭	吉田 司
江 戸 川 区 立 西 葛 西 小 学 校	主任教諭	高橋 美衣
府 中 市 立 府 中 第 五 小 学 校	主任教諭	佐藤 理津子
府 中 市 立 府 中 第 九 小 学 校	主任教諭	柳生 実華
東 村 山 市 立 南 台 小 学 校	主任教諭	小倉 さえ子
東 村 山 市 立 北 山 小 学 校	主任教諭	佐藤 あすか
東 大 和 市 立 第 七 小 学 校	主任教諭	東 奈奈子
武 蔵 村 山 市 立 小 中 一 貫 校 村 山 学 園	主幹教諭	伊東 真人

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部教育経営課
課長代理（課務担当） 柏崎 康徳

平成28年度

教育研究員研究報告書
小学校・特別活動

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成28年度第142号〕

平成29年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 株式会社オゾニックス